

しゃかいふくし ほうじん いわて かいこうほう し  
社会福祉法人 岩手ひだまり会広報誌

# ひだまり

2021.6  
Vol.21



えがお たの じかん  
～ 笑顔がたえない楽しい時間を ～

きたかみ  
ひだまり北上にこっと

# 令和三年度の取り組み — 令和三年度事業計画概要報告 —

## 1. 引き続き新型コロナウイルス感染症予防へ

昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応に努めた一年でした。感染拡大防止の観点から、諸活動の自粛と縮小を余儀なくされました。手洗い・消毒・三密回避といった新しい行動様式の中、サービスを模索し提供いたしました。

今年度も、引き続きコロナ対策を講じながら、利用者の皆様により良いサービス提供ができるように努めていきます。



コロナ対策で4月にいち早くリモート会議導入

## 2. 重度障がい児・医療的ケア児への支援

「なければ作ればよい」の号令のもと令和二年五月に開設した重症心身障害児・医療的ケア児を支援する放課後等デイ「水沢☆きらり」は、胆江以南で初のデイサービスですが、地域のニーズを解決する社会的資源として注目が集まりました。令和三年度事業においても、奥州市や関係機関との連携を深めながら、今後、支援が必要とされる医療的ケア児、重度心身障害児への療育支援の推進に努めます。



令和2年に開設した重症児デイ「水沢☆きらり」

## 3. 早期個別支援の強化

現在、NPOや民間企業など多くの放課後等デイが参入し、質の低下と事業所数の飽和が叫ばれています。

このような状況の中、前年度北上市において、全国千以上の児童発達支援施設への研修システムの導入実績のあるLITALICOグループより、就学前の個別支援コンサルテーションを受けました。今年度奥州市において

### ご指導いただいたリタリコジュニアの先生方



LITALICO発達ナビ 保育士  
坂辺ひかる 先生

児童保育指導員、支援級介助員を経て2012年LITALICOへ入社。教室勤務後はトレーナーとして支援を行いながら複数教室の指導員育成に携わり、のちに教室長となる。LITALICO発達ナビ異動後は、全国の複数事業所を展開している法人様を担当し、サービス活用サポートから研修実施まで幅広く行っている。



公認心理師/臨床心理士/臨床発達心理士  
LITALICOジュニア チーフスーパーバイザー  
菅佐原 洋 先生

発達心理学や応用行動分析学を専門とし、発達障害のある子どもへの直接支援、幼・小・中学校教職員への特別支援アドバイザー、教育センター等での研修などに20年以上携わっている。また大学教員として、臨床心理士育成などに関わっており、現職においても支援に関わる指導員への研修やスーパーバイザーの育成の統括を担当しておられます。

LITALICOグループによる個別支援指導 (広報19号より)

同様のコンサルテーションを受ける予定であり、児童発達支援事業を併設させ、早期療育支援の専門性推進に努めます。

#### 4. 持続可能な安定経営の推進

今年度は障害福祉サービス等報酬改定の年となります。改定内容や報酬額についてマイナス改定は現実視されており、法人経営に大きく影響があるものと考られます。

現在、法人所有の土地について中長期的な視点に立ち、「今後地域で必要とされているサービス施設は何か。新施設にどのような機能を持たせるか。」を新施設建設委員会で協議し、法人の安定経営の推進に努めます。



ひだまり江刺桜木のアニマルセラピー

## チョークアートの素敵な絵をいただきました



菊池宗力さん(右から)と真紀さん夫妻  
高橋理事長(左から)と伊藤所長

一月五日、ひだまり設立当初からご利用いただき、重症児デ「ひだまり水沢☆きらり」の開設を待たずに亡くなられた菊池莉穂さんのご両親が、ひだまり水沢☆きらりに訪れ絵をご寄贈いただきました。

ピンクの蝶は莉穂さんの好きだった色、車椅子生活だった彼女が天国で飛び回ってほしいというお母さんの願いが込められた絵だそうです。中央の犬は莉穂さんが名付け親の桃ちゃん、桃ちゃんはいつも莉穂さんのそばに寄り添っていたそうです。

# 育ちを支える

奥州市子育て総合支援センター  
子ども発達支援センター 所長

菅原 敬子

はじめに、表題にあげた「育ち」に  
込めた意味についてです。子ども自身  
が主役になっていくこと。子どもが  
持っている力を発揮していくこと。を  
意識したものです。何よりも子ども自  
身の「育ち」を周りの人たちが認める「  
ことからスタートしていききたいです」  
。「早期療育」についてお話します。  
「早期」には二つの意味があると思っ  
ます。一つは「子ども」が自分の持っ  
ている力を発信（発揮）できる環境づ



くり。もう一つは「親」が不安を持ちながら  
も子育てを楽しく、前向きに取り組める環境  
づくりです。

子どもは未熟なので、自分の気持ちを整理  
することができないでいるので、気持ちを  
ふっ散らかしてしまいます。大人もヘトヘト  
状態では子どもの気持ちの整理まで手が回り  
ません。逆に大人が落ち着かない気持ちを倍  
にしてふっ散らかします。子どもの表現は一  
人一人違っていますが、何を表現しているの  
かを一生懸命探り、それに応えてあげようと  
することが「大人の育ち」に繋がるのです。  
子どもを認めて手伝ってあげることが大切で  
す。大人は子どもの小さな変化に気づくため  
に、心の余裕が必要です。大人にとっても子  
どもにとっても自分（本人）以外の多くの関  
わりが早いほど「心の安定」を作りやすくな  
り、たくさん目の手で「子どもの育ち」を  
応援するシステムが作れます。ぜひ市内の子  
育て支援センターや幼児教室など応援できる  
場所を活用してほしいと思っています。  
今年度より奥州市地域自立支援協議会に  
「医療的ケア児等支援部会」が加わりまし  
た。ご家庭の不安やニーズの把握のためのア  
ンケート実施や医療機関からの退院時不安軽

減のための奥州市版リーフレットの作成、コ  
ロナ対応でのマスク・アルコールの配布を福  
祉課と連携して行うなど、スムーズな対応が  
できたと思います。また、医療的ケア児や重  
症心身障がい児について正しく知ってもらう  
ために、胆沢地区保育協議会研修会で「医療  
的ケアって何だろう」のテーマでケア児の親  
御さんと一緒にお話をさせていただきました。  
「知ってもらおう」ことから「理解」に広がり  
「関わり」が密になるようにしていきたいと  
思います。

子ども発達支援センターの「さくらんぼグ  
ループ」（重症心身障害児支援事業）も三年  
目となりました。利用者は少ない中での活動  
ですが、就園・就学に向けて事前の丁寧な情  
報提供や地域資源の積極的な利用（各事業所  
の発達支援事業）など関係機関とつながって  
いると実感しています。

これから大事とされることは、障がいの有  
無に関わらず「子どもの心の健康」（家族の  
有り様）です。大人（親）の子どもへの対応  
スキルも含め、子育て支援センター・子供発  
達支援センターを必要とする人たちが動き出  
せるきっかけの場所になるよう努めていきたく  
いと思っています。

じぎょうしょしょうかい  
事業所紹介

えさしだいにさくらぎ  
ひだまり江刺第二桜木



社会福祉法人岩手ひだまり会の放課後等デイもお蔭様で十六年目を迎え奥州市八事業所、北上市二事業所となりました。事業所は共通した療育支援はもちろん行っていますが、それぞれの個性もあります。ここでは、利用している保護者さんからのリクエストもあり、それぞれの事業所をこれから紹介していきます。



ねん りょういくしどうけいけん たかなめぐみ  
15年の療育指導経験の高梨恵  
所長

Q. 事業所の特徴とはなんですか？

A. 現在、放課後等デイサービスの登録者数は二十二名、小学校一年生〜高校三年生までの利用者が在籍しております。バリアフリーの建物となっていて車いすを使用している利用者にも安心して過ごしていただけます。また、地域住民との交流を図りながら将来の生活に必要なソーシャルスキル(社会技能)を学べるよう支援しています。

Q. 事業所で力を入れている活動や取り組みを教えてください。

A. 指導方針として特に力を入れていることは、本人の強みを伸ばすことを意識した療育支援に取り組んでいることです。さらに、小グループでの外出活動等、社会体験の場を多く設けています。外出活動では買い物の場面を設け、お金の使い方などお小遣い帳を用いて振り返りをしています。また、小グループ制を用いて日常生活に必要なスキルやコミュニケーションの方法を丁寧に指導しています。※SSTでは専用プリントなどを使用し指導する他に実践的なトレーニングも行っています。

※SST：ソーシャルスキルトレーニング(社会技能訓練)

Q. どんな事業所を目指していますか？

A. 運営方針である「明るい事業所、笑顔あふれる事業所、利用者・保護者に信頼される事業所」を目指し、利用者・保護者の声に耳を傾けながら寄り添った支援をする事に力を入れています。



えすえすてい- つか こべつしえん ようす  
SSTプリントを使った個別支援の様子



ながしほけん いりょう ふくしぶんや なが  
市の保健・医療・福祉分野に長  
ねんけいけん すがわらしちやう  
年経験のある菅原所長

Q. 事業所の特徴とはなんですか？

A. 奥州市水沢地区の小学校（水沢、水沢南、姉体、前沢、常盤、佐倉河）の低学年のお友達が元気よく利用されています。中学生、高校生の利用者もおりますが、長期休暇時の利用となっております。水沢公園をはじめ市内の公園での遊びや運動、室内ではゲームや制作を通してお友達と楽しく過ごし、体を動かしながら人との関わり方の学びを療育しています。

Q. 事業所で力を入れている活動や取り組みを教えてください。

A. 「トライタイム」活動を通して、時間の過ごし方を自分たちで考え、ルールを決め、お友達と行えるように自主性を育てる取り組みを行っています。  
遊びを通して、お友達への思いやりや協

調整が育むように力を入れています。また、月一〜二回のヨガでは、静かに体を動かすことも行い、集中力と発達性協調運動の向上にも力を入れています。

Q. どんな事業所を目指していますか？

A. 低学年の多い事業所ですので、違う学校や学年のお友達と切磋琢磨し、運動等の活動や遊びを通して日々成長できる事業所を目指しています。



ヨガ活動を通して発達性強調運動（DCD）トレーニング

## 保護者だより



ひだまり江刺岩谷堂  
母 堀 由里子さん  
利用者 りょうしゃ 陽 雲さん

陽雲が小学校二年生の時からひだまり江刺岩谷堂にお世話になっており、今年の四月からは中学生になります。この六年間の間にも箸が使えるようになり、跳び縄が結べるようになり、靴のひもが結べるようになり、今は自分の気持ちを表せるように、一歩一歩成長しようとしている陽雲です。ひだまりの皆さんに陽雲がステップアップできるよう、全力でサポートしていただいたお陰で色々な事ができるようになりました。これから思春期になり、新たな課題が出てくるかと思いますが、ひだまりの皆さんと協力し合って、これからの陽雲の成長をサポートしていきたいと思っています。どんな中学校生活を送っていくのか、ちょっと心配ですが、持ち前の素直さとユーモアで明るく、楽しく過ごしていくって欲しいなと思います。ひだまりの皆さん、これからもどうぞよろしくお願いします。

## 笑顔で元気に仕事をしています!



牛乳パックでリサイクル業務を行っている恭平さん

上村 恭平さん (十八歳)

上村恭平さんは現在「生活介護」に過しておられます。火曜日から金曜日、朝は九時五十分、終礼十五時三十分まで。午前中は体操、午後は作業やレクリエーション、音楽療法などを行っています。作業は牛乳パックをはさみで切りリサイクル業務を行っています。さらに段ボールの解体作業等やこの中の板選別と云って厚い板、薄い板を瞬時に見分ける事が

出来るそうでした。仕分けの補助も行っています。休憩時間には皆でお茶を飲み楽しく過ごされているようです。そして給食時間に大好きなカレーが出た時にはとても嬉しそうに召し上がっているそうです。ただしご自宅では少し食べ過ぎるようで体重が気になるようです。一生懸命集中してお仕事をされている時の姿とは逆にお話を伺っている時は恥ずかしそうに下を向いてとてもシャイな恭平さんでした。仲良しのお友達も出来、創作活動では様々な作品作りに取り組み「きらきらぼし」で活躍されておりました。

### ○当時の職員より

現桜木所長 佐々木幾久美

小学生の頃に出会った恭平さんがもう卒業して、生活介護の施設で過ごしているという事自体時の流れを感じてしまいます。小さい時から何事も丁寧に取り組む姿勢は変わらず、芸術的な事にも素敵なセンスを見せていた恭平さんには、これからも続けてほしいです。

たいせつ ばしょ たいせつ  
**大切な場所 大切なひと**



「つなぐ」切れない支援

ひだまり水沢駅東 所長 千葉 浩枝

ある夏の暑い日のこと...

私の背を遙かに超えた一人の青年が、自転車をこいで事業所を訪れました。はにかみながら穏やかな口調で、「きたよ...」。

数年前に一緒に過ごした利用者さんが、自分の足で会いに来てくれました。泣いたり、笑ったり、怒ったり...当時の色々な出来事を思い出して、懐かしさがこみ上げ、目頭が熱くなりました。

これまで縁があつて、お会いすることができたお子様たちとの貴重なひとときを振り返りつくづく思うこと。それは、「切れない支援」の大切さです。発達障害者は、ライフステージを通じて、その障害特性に起因する様々な困難に直面する可能性がある為、支援は切れないものにしていく必要があると言われています。ひだまりには、早い方では幼児期から利用開始し、学童期、青年期、そして成人期(就労)に至るまで、長い期間に渡り、利用される方もあります。お子様と携わる支援者が変わる方も、支援内容が引き継がれ、その後もそれぞれの発達段階に合わせた切れない支援でつなぐことの大切さを痛感しています。

これから先迎える生活は、利用者ご本人の努力はもろろんのこと、ご家族の支え、そしてその方に携わる支援者が、切れない支援でないだ結果が影響を与えると考えます。将来お子様たちの困り感が少しでも減って、生活しやすくなるように...つい私が口にしてしまう言葉ですが、これからもその思いを抱きながら大切な時間を過ごしていきたいです。

お子様たちがふらりと立ち寄りたくなる、そんな「場所」そして「人」でありたいと思います。

**寄贈品**

左記の方より寄贈頂きました。

- 令和二年十一月九日 伊藤一美様より
  - かぼちゃ (南部一郎) 五十個
  - 令和二年十一月十二日 佐藤則子様より
  - ホームペーカーリー
  - 令和二年十二月八日
  - 株式会社ソノカワ様より
  - お菓子詰め合わせ 二百七十五個
  - 令和二年十二月十日
  - (株)公衆 ウインズ奥州様より
  - お菓子詰め合わせ 二百五十個
  - 令和二年十二月十八日
  - かぎや菓子舗
  - クリスマスケーキ四個 (市内七福祉施設)
  - 令和二年十二月二十五日
  - 三上美智子様より
  - アルコール除菌シート百枚入り三個
- ありがとうございました。

**編集後記**

今回は、子育て支援センターの菅原所長の協力を頂きました。悩む子育てを、楽しんで子育てに変換できるよう、私たちもお手伝いしていきたいと思えます。お互い様の気持ちを大切に、新年度もよろしくお願ひいたします。(服飾)